新市町職員 東播磨道工事を見学

スケール感を肌で

県まちづくり技術センター

入庁1～3年目の建設事業を担当する県内各市町の職員を対象にした研修を5月24日から26日まで、県まちづくり技術センター（寺谷毅理事長）が神戸市などで開催した。次世代の技術者育成への「はじめの一歩」として、公共事業の魅力やスケール感を肌で感じてもらうのが狙い。

研修2日目の25日には加東土木事務所の協力を得て現場見学も実施された。参加者52人は小野市の東播磨道北工区・室山高架橋上部工事の現場を訪れ、橋梁架設用移動作業車（通称ワーゲン）で数メートルのブロックごとに架設する張り出し架設工法について、加東土木事務所の担当職員から説明を受けた。参加者はグループに分かれて、高さ約30メートルの室山高架橋にのぼり、張り出し架設の現場を体感し熱心に質問していた。

参加者からは「普段は見学できない現場を目の当たりにし、土木職として貴重な経験になった」「現場の規模も機材も大きいが整理整頓、清掃が行き届いていた」などの感想が寄せられた。

研修ではこのほか、法華山谷川の河川護岸で災害時を想定したポール横断測量や水準測量の測量実習も実施。そのほか座学では、センター職員が講師を務め「コンクリート構造物の基礎知識と老朽化対策」「土木工事の積算基礎と設計書作成のポイント」「土木工事の監督基礎」をテーマに講義もあった。

職員から工事の説明を受けた後、高さ30メートルの高架橋の現場も見学した

兵庫ジャーナル1950号
6月5日掲載